



伊賀の自然 第8回



『ノスリ』

ノスリ 撮影：田中豊成



青山高原のモグラ塚

そろそろ晩秋。伊賀にもノスリが増える季節になってきました。ノスリはタカの種類です。全長60cm、翼開長120cmくらいで、トンビよりも小さく、カラスよりは少し大きいタカです。止まっているところを見るとトビに似ていますが、かなり小さく、白っぽく見えます。飛んでいるところを下から見ると、全体に白くて、翼が広く、尾羽が扇形なのが特徴です。他の多くのタカは尾羽が細長いものが多いです。餌はネズミ類が多いのですが、モグラを捕まえるのを得意としています。地面の中のモグラを超能力で探知して捕まえるのではなく、モグラが掘った土を盛り上げて造るモグラ塚が、わずかに動くのを数百m離れた場所から見つけて、一気に襲って捕まえます。シバ草原やツツジの低木林の多い青山高原にはモグラが多いので、冬の間はよく見られます。三重県では最近まで繁殖は確認されておらず、冬にだけ来る冬鳥と考えられていましたが、3年前に青山高原とその周辺でのみ、少数の繁殖が確認されました。

伊賀の山並み 経が峰

上野市街地から東の青山高原の最高峰、笠取山の北、前回の錫杖ヶ岳との間に遠くに見えるのが、この「経が峰」です。錫杖ヶ岳と同じく、山容がピラミッド形なので、古来より信仰されていたようです。津市にあり、かつては安濃が岳と呼ばれていましたが、北畠氏の家臣、長野氏の家来である近藤左金吾が、大股若経100巻を納めたことから「経が峰」と呼ばれるようになったと伝えられています。また、人魚の肉を食べたために不老長寿になった八百比丘尼が800年の時を経て、念願の最後を迎えたのが、この山なのだそうです。今も生きていたら大スターになっていたのに惜しいことです。非常に霊験あらたかだと言うこともあり、登山者が絶えないようです。



経が峰



経が峰遠望

武田恵世

歯科医師、歯学博士 伊賀市上野桑町で開業。伊賀市環境保全市民会議 レッドデータブック作成委員会 委員長。環境省希少野生動物種保存推進員。日本鳥学会、日本生態学会 会員他。著書に「風力発電の不都合な真実」(アットワークス刊)などがある。